

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 平成30年度活動実績総括

学術研究推進機構長（前学術・産業イノベーション創造本部長）

小川 真人

学術・産業イノベーション創造本部（以下、創造本部）は、平成28年度（2016年度）に基礎研究から社会実装までを一元化した体制で推進する組織として設立されました。現在、「学術研究推進部門」、「産学連携・知財部門」、「社会実装デザイン部門」の3部門構成で、それぞれ、教員の競争的資金獲得・国際研究力強化の支援、産学連携研究推進・知財管理・組織的共同研究、新産業創出・機能強化プロジェクトの推進を行っています。

創造本部の平成30年度の活動報告として、別途示すように各部門の成果は多々ありますが、以下の3点がトピックとして挙げられます。

（1）学術研究推進部門（URA室）

リサーチアドミニストレータ協議会（RA協議会）第4回年次大会（9月19、20日、神戸国際会議場）を、本校が大会主管校として開催

（2）産学連携・知財部門

受託研究・特許権実施による資金の獲得金額の増加

（3）社会実装デザイン部門

省庁関係、主に環境省の大型外部資金獲得、産官学民連携の推進及びオープンイノベーションの推進

（1）に関して、本学は、平成25年度文部科学省「研究大学強化促進事業」（22機関）に採択され、10年間の支援を受けることになり、本事業6年目となる平成30年度は研究マネジメント人材として8名のURA（University Research Administrator）を配置し、研究支援の推進、研究組織体制強化、研究指標の分析等を行っています。

全国のURA活動の共有、改善、連携強化を図るための会合であるリサーチアドミニストレータ協議会（RA協議会）第4回年次大会（9月19、20日、神戸国際会議場）を、本校が大会主管校として研究担当理事が大会長となり、武田廣学長も出席し、開催しました。内閣府、文部科学省、企業経営者等

に加えて、欧州URA団体（EARMA）からも来賓を招き、省庁・企業経営者・大学経営層によるパネルディスカッションや、今回新たに EARMA と共同の国際セッションを開催するなど、外国人 24 名を含む 696 名（前回大会に比し 25%増）の参加を得て、たいへん盛況に、成功裡に開催することが出来ました。さらに、本大会の内容は、米国URA団体会誌（NCURA）に掲載されました。

（2）については、共同研究費は大型共同研究の減（令和元年度はある程度回復予定）により 3.9 億円減の 10 億円となったものの、受託研究受入額 前年比 3.3 億円増の 41 億円、特許権実施収入が 2300 万円と、共同研究の減を除き、毎年増加傾向を示しております。

特に、平成 30 年度に文部科学省から公表された平成 29 年度の特許権実施等収入の全国大学ランキングでは、本学は 13 位となり、皆様方からご心配頂いた平成 27 年度の 27 位から大幅な改善を示しました。平成 30 年度の特許実施等収入は、2323 万円であり、平成 29 年度に引き続いて高い収入金額水準を維持しています。平成 30 年度の特許権実施等収入には、本学発バイオ系ベンチャー（バイオパレット）への実施許諾の対価も寄与しておりますが、細胞培養系特許について製薬企業にオプション権を付与した対価や薬剤系特許を製薬企業に実施許諾した対価（マイルストーン）なども大きく寄与しております。

（3）については、環境省「CO₂ 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業」（平成 29～31 年度：2 億 4000 万円）において、三宮地下街でのエネルギー消費量半減の目標達成が可能となった件、超スマート社会（Society5.0）の実現に向け、神戸大学と協働する一般社団法人「超スマート社会研究機構（SSCL）」を 2018 年 7 月に設立した件、大型プロジェクト成功への推進マネジメントを行うべく、オープンイノベーション機構について採択された大学等を訪問アリング調査の実施や、採択されるための要件の明確化を行い、令和元年度の再申請に向けて企画・検討を行っている点が挙げられます。

前年度同様、運営費交付金の削減のみならず、機能強化評価方法の急激な変更、人事院勧告への準拠、新年俸制・教員評価制度対応等への支出も加わり、本学の運営・経営基盤が揺らいでいる状態が続いております。本学が教育・研究に関してあるべき姿を実現・維持できるだけ資金を生み出し、大学本来の教育研究を円滑に行うための支援を永続的に行うことが創造本部に期待されておるところです。令和元年度には、小田啓二学術・産業イノベーション創造本部長の下で、昨年度惜しくも採択されなかったオープンイノベーション機構の申請・採択、神戸市、兵庫県との連携による地方創生の推進を目指し、産学連携・知財活用・社会実装の強化、併せて学術研究の推進を図っていきたいと考えております。今後も皆様方の私ども創造本部の活動へのご理解とご支援をお願い申し上げます。